

## 「真の父母様の御聖誕」

みなさん、こんにちは。きょうは「真の父母様の御聖誕」という題目で、一緒に学んでいきたいと思えます。

まず聖書を見れば、イエス様の誕生の話についての記述があります。飼い葉おけの中でお生まれになった、東方の3博士がお祝いに来たなどの話を耳にしたことがあると思います。イエス様の誕生を見ると、天の父母様が様々な準備をしてこられたことがわかります。真の父母様の誕生も、何の条件もなしにお生まれになったのではありません。同じように天の父母様の準備と導きの中でなされていきますが、真のお父様、真のお母様のお二人の誕生と幼少期について見ていきましょう。

まずは真のお父様の誕生です。真のお父様は1920年陰暦の1月6日に北韓の平安北道の定州というところでお生まれになりました。

お父様の家門には、先祖代々引き継がれる伝統がありました。それは、貧しい人やお腹のすいた人にご飯をあげることでした。真のお父様の自叙伝『平和を愛する世界人として』を見ると、その一番初めの章に何が書いてあるでしょうか。それは、「ご飯が愛である」という一文から始まります。

すでに先祖代々、多くの人々を助ける、そのような役割をしてきたという事実です。ですから貧しい人が真のお父様の住んでいる地域に行くことがあれば、「文氏の家に行けばただでご飯を食べさせてくれる」と村の外にまで知れ渡っていたと言います。ですから、ある面で言えば、お父様の一番大きな教えである「ために生きなさい」というみ言は、そのような伝統から出てきたのではないかというふうに思います。

自叙伝を見ると、真のお父様が幼少期から実に多感な時期を過ごされたことがわかります。幼い頃の真のお父様のあだ名は「1日泣き」でした。一度泣き始めると、一日中泣いてようやく泣き止むところから付いたあだ名です。泣くときは、一大事でも起こったかのようにわんわん泣いて、寝ている者が皆起き出してくるほどだったと言います。また、一度決心したら絶対に譲歩しない性格でした。もちろん物心がつく前のことですが、自分が間違っているとわかっていても、お母さんに「自分は絶対間違っていない」と立ち向かったそうです。そして真のお父様は勝負に対しても食欲で、「あいつは一度やると言ったら必ずやる奴だ」と村の大人の誰もが認めるほどでした。

このように、多感な幼少期を過ごしてこられた真のお父様ですが、一方で実に多くの苦難を経験しておられます。真のお父様は10歳の時から家族全員キリスト教に改宗していますが、礼拝を一度も欠かさないくらい熱心に信仰生活をされました。そのころから神様について、人生について、死後の世界について深刻に悩まれたと言います。

また、真のお父様が15歳の頃、13人の兄弟姉妹のうち5人の弟妹が1年間に相次いでこの世を去るという悲劇を経験されました。自分の家族がひとりでも亡くなれば相当な悲しみになるでしょうが、それが1年に5人もこの世を去るということで、どれほど辛いご心情だったのでしょうか。それに加え、ある日、自分と同年の中学生が自殺するという記事を新聞で読み、その少年の悲しみが自分の悲しみのよ

うに感じられて、三日三晩泣かれたと言います。

このような苦難と現実を前に、教会で聞くみ言だけでは、生と死に関する疑問を解決することができなかった真のお父様は、家の近くにある猫頭山に登って毎日祈禱を捧げるようになりました。そして大きく3つの内容などについて、祈禱をされます。それは何かというと、一つ目に「神は確実に存在するのか。神は本当に全能のお方なのか」、二つ目に「私は誰なのか。どこから来たのか。人生の目的は何か」、そして三つ目は「人は死ねばどうなるのか。霊魂の世界は果たしてあるのか」などです。みなさんも人生の三大疑問、すなわち「人はどこから来たのか」「人生の目的とは何か」「死後はどうなるのか」について、考えてみたことがあるかもしれません。

そして1935年4月17日（水）、復活祭（イースター）を迎える週の早朝に、猫頭山（ミョドゥサン）でイエス様が霊的に現れ、天命を受けられます。

「祈りでずっと夜を過ごした後、明け方になって、イエス様が風のように忽然と私の前に現れました。

『苦しんでいる人類のゆえに、神様はあまりにも悲しんでおられます。地上で天の御旨に対する特別な使命を果たしなさい』

イエス様は、そう語られたのです。

その日、私は悲しい顔のイエス様をはっきりと見、その声をはっきりと聞きました。イエス様が現れた時、私の体はヤマナラシの木が震えるように激しく震えました。その場で今すぐ死んでしまうのではないかとされるほどの恐れ、そして胸が張り裂けるような感激が一度に襲いました。イエス様は、私がやるべきことをはっきりとお話しになりました。苦しんでいる人類を救い、神様を喜ばせてさしあげなさい、という驚くべきみ言でした。

『私にはできません。どうやってそれをするのでしょうか。そんなにも重大な任務を私に下さるのですか』

本当に恐ろしくてたまらず、何とか辞退しようとして、私はイエス様の服の裾をつかんで泣き続けました」（『平和を愛する世界人として』p. 66～67、光言社版）

イエス様は真のお父様の手をつかんでこう語られました。「私が果たすことのできなかった使命をあなたが必ず成してください」。とても切実な願いでした。それからというもの、毎日のように真のお父様は深い祈禱と精誠の中で、天がくださった使命を果たすために熾烈な生涯を生きるようになります。これが真のお父様の誕生と幼少期に関するお話です。

続いて真のお母様の誕生についてご紹介いたします。真のお母様の故郷も北韓です。ところで真のお父様は平安北道の定州、真のお母様は平安南道の安州です。真のお母様は1943年1月6日、真のお父様と同じ誕生日にお生まれになりました。年の差は非常に大きいですが、真のお母様がお生まれになったところは真のお父様の家と40kmしか離れていませんでした。

その当時は第二次世界大戦の真っ最中でした。また、日本の支配下にあって、様々な困難のある時代でした。そしてこの支配下で神社参拝に反対して地下活動をした勢力が独立運動の中心となりました。そ

のため独立運動をした人の面々を見れば、キリスト教信者たちが多くいました。真のお母様の家門は三代に及ぶ篤実なキリスト教信者たちです。

大部分の篤実なキリスト教信者たちは、北韓における、神霊集団などと言います。真のお母様はその集団の人（腹中教の許浩彬氏の母親）から「天の新婦になられる方」と祝福されました。

また、真のお母様のお母さんである洪順愛大母様は、天からの啓示を受けることになります。このときから洪順愛大母様は真のお母様を天の子女として、時には厳しく、そして愛情いっぱい育てていかれました。

そして、真のお母様が生まれる時、お父さんである韓承運氏は、啓示というべき夢を見たそうです。それは、松が鬱蒼と茂る林の中で、清く美しい日の光を浴びながら、二羽の鶴が仲睦まじく過ごしている夢でした。そのため、「鶴子」という名前がつけられたそうです。お父さんはキリスト教の信仰に厚く、教員生活と信仰生活に真摯に取り組まれました。

このように、どちらも敬虔なキリスト教の信者であった両親に育てられた真のお母様も、4歳の頃から教会に通われました。

そして洪順愛大母様は天から受けた啓示を必ずや果たさんと、より一層精誠を尽くすようになります。また、真のお母様が天の新婦となることができるよう、真のお母様が小学校を卒業された後、世の中とは関係のない、聖女の道を歩ませようとなりました。真のお母様はその当時をこのように話されます。

「神様の娘として召命を受けるためには、純潔でなければならないという思いで、精誠を尽くしたのです。新孝小学校の5年に転入した私は、遊びたい盛りの年に、過酷とも言えるほどの厳しい信仰生活をするようになりました。祈禱、敬拝、精誠を捧げること、ほとんどの時間を費やすようになったのです」（『人類の涙をぬぐう平和の母』 p.89）

友だちと元気に楽しく遊ぶような時期であったとしても、神様のことを考えて幼少期を過ごされたお母様でした。また、真のお母様は小学校を卒業後、ソウルにある聖貞（聖正）女子中学校（現在の善正中学校）に入学されます。中学時代の真のお母様は、静かでありつつも勉学や芸術だけでなく、生徒会活動の先頭に立ってリーダーシップを発揮されるという一面もありました。それだけでなく、信仰生活においても更にいっそう取り組まれていきました。

「また、外的にはそのような信仰的環境で過ごすとともに、内的には自分自身で、揺れることのない信仰の太い根を張っていきました。この時期の私は多くの本を読みました。（中略）幼い頃から、私は神様が自分の父であることを知っていたので、読んだ作品はみな、自然に神様とつなげて考えることができました。世俗の荒々しい環境から自分自身を完全に隔離して、まるで修道女のように清い生活を送り、自分自身の意思ではなく、天に導かれるままに生きたのです。特にこの時期、聖書をよく読みました。神様の創造や人間の墮落、そして中心人物を通して進められてきた神様の救いの歴史を読みながら、涙と共に多くの夜を明かしました」

『人類の涙をぬぐう平和の母』 p.100~101

このように、真のお母様も、真のお父様のように幼少期から神様のことを追い求めていかれたことがわかります。真のお母様は幼いころから天のみ旨を知り、自身の父母である天の父母様のみ旨を自分の代で必ずや成し遂げると決心するようになります。

以上が真のお父様と真のお母様の誕生に関するお話でした。私たちは文総裁と韓総裁を真の父母様と呼んでいますが、「真の父母」とはいったいなんでしょうか。墮落した人類を重生復活させ、原罪を清算し、神の血統に復帰し再創造する使命をもつのが真の父母様です。そして、神様を中心に侍り、人類が祝福結婚を通して神様の下的人类一家族世界理想を実現する方です。私たちが真の父母様の誕生とその生涯を知ること、真の父母様がいったいどのようなお方なのか、そして私といったいどのような関係があるのか、少しずつわかっていくと思います。

私たちも真の父母様の幼少期を思い起こしながら、成和学生としての大切な期間を過ごしていきましょう。以上で、「真の父母様の御聖誕」についての説教を終わります。ありがとうございました。